

臨床検査医学講座

講座担当教授	松浦 知和	臨床細胞生物学
教授	海渡 健	臨床血液学
教授	吉田 博	脂質代謝学, 循環器病学
(内科学講座(総合診療内科)に出席中)		
教授	須江 洋成	精神神経医学
教授	杉本 健一	循環器病学
教授	中田 浩二	¹³ C呼気試験による生体機能検査, 機能性消化管障害
准教授	小笠原洋治	臨床血液学
准教授	政木 隆博	肝臓病学, ウイルス学, 臨床検査医学
講師	目崎 喜弘	臨床分子生物学
講師	越智 小枝	災害公衆衛生, 関節リウマチ
講師	河野 緑	臨床微生物学
(臨床医学研究所に出席中)		
講師	秋月 摂子	病態検査学

教育・研究概要

I. 臨床微生物学に関する研究

1. 病原ウイルス・細菌に関する研究(安藤 隆, 政木隆博, 河野 緑, 松浦知和)

B型肝炎ウイルス(HBV)やC型肝炎ウイルス(HCV)など肝炎ウイルスの基礎研究, 新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の核酸増幅法の検討を行った。HBV研究では, 感染に必要とされる感染補助因子候補の探索を行った。HCV研究では, HCVの増殖制御に関する新規マイクロRNAや自然免疫シグナル経路を同定した。種々のSARS-CoV-2核酸増幅法を検討し, 検査法の最適化を図った。附属4病院における肺炎球菌の分離状況と各種抗菌薬に対する感受性の経年的推移を調査し, 5歳未満の小児における肺炎球菌ワクチン接種の有用性を明らかにした。さらに, 本研究結果を英文誌に投稿した(大学院生 安藤 隆)。

2. 炎症性疾患の呼気検査と腸内細菌叢の解析(河野 緑)

炎症性疾患を伴う患者の呼気中に含まれる成分についてGC/MS装置を用いた解析を継続した。ラットおよびマウスに与える飼料および投薬による腸内細菌叢の変化についてメタゲノム解析を用いて行った。

II. 臨床化学に関する研究

1. ¹³C呼気試験法を用いた胃切除後患者の消化管機能評価(中田浩二, 秋月摂子)

¹³C呼気試験法は簡便, 非侵襲的かつ安全に胃排出能, 消化吸収能などの生体機能を調べることができる有用な検査法である。これらの検査をさまざまなタイプの胃切除術を受けた患者に行い, 術式の評価に役立てている。¹³C呼気試験法を実地臨床の場合においてさまざまな疾患の病態解明や治療効果の判定に活用するために定期的に全国的な勉強会を主催し, 研究者間の情報交流とコンセンサス形成を推進している。また胃切除後障害の軽減に役立つ術式を明らかにし, その普及とさらなる改良を行うために, 「胃癌術後評価を考える」ワーキンググループの活動(事務局)を通じて全国規模の多施設共同研究を企画・推進している。

2. 脂質代謝異常に関する研究(吉田 博)

HDLのコレステロール濃度などの量的評価ではなく, HDLの抗動脈硬化作用の中心的な機能であるCellular cholesterol efflux(コレステロール引き抜き能)の評価方法として安定同位体を用いたメソッドを確立して論文発表した(Shimizu T, et al. J Lipid Res 2019; 60(11): 1959-67)。臨床研究としては, 2型糖尿病患者において尿酸, ホモシステインがeGFRと関連を示し, 糖尿病における血管障害リスクの推定に有用である可能性が示唆されたが, 現在, さらなる検討を続けている。また基礎研究としては, 抗酸化・抗解毒酵素の誘導に関与する転写因子Nrf2が関連する分子が糖尿病性腎症診療における重要なマーカーとして役割を果たす可能性について検討している。

3. 安定同位体呼気試験に関する基礎および臨床研究(江崎裕敬, 中村まり子, 河野 緑, 目崎喜弘, 政木隆博, 松浦知和)

循環器疾患及び生活習慣病患者200名を対象として肝臓インスリン抵抗性について検討するため, 空腹時¹³C-glucose呼気試験(Fasting ¹³C-glucose breath test; FGBT)を施行し, Homeostasis Model Assessment-Insulin Resistance(HOMA-IR)との相違について検討した。対象患者全体の¹³Cグルコース投与後120分の¹³C排出速度C₁₂₀(mmol/hr)は健常者とくらべて有意に低値であり, HOMA-IRは有意に高値であった。C₁₂₀値は虚血性心疾患患者, 非虚血性心疾患患者(心不全や心房細動などを有する患者), 心疾患を有しない生活習慣病患者のいずれの群でも健常者より有意に低値であった一方, HOMA-IRは虚血性心疾患患者, 心

疾患を有しない生活習慣病患者と健常者との間に有意な差を認めなかった。また、既知の心血管リスク因子として知られる各種パラメーターとの相関においては、多変量解析では、 C_{120} 値を独立して規定する因子として HbA1C 値が、HOMA-IR を独立して規定する因子として BMI、HDL-コレステロール、中性脂肪が検出された。以上の成果について欧文誌に発表した (Ezaki H, et al. Clin Chim Acta 2020; 500: 20-7) (大学院生 江崎裕敬)。

基礎的研究では、肥満・糖尿病モデル Wistar Fatty rat あるいは SDT Fatty rat を用いて、40 週令までの肝臓インスリン抵抗性の発症過程を FGBT で測定し、解析中。

Ⅲ. 臨床腫瘍・血液学に関する研究 (小笠原洋治, 海渡 健)

再生不良性貧血、骨髄異形成症候群などの骨髄不全症候群の病態解析および治療の改良を主な研究テーマとし、再生不良性貧血に対する至適治療法を明らかにするため、当院における再生不良性貧血患者の長期的治療データを解析している。

Ⅳ. 臨床精神医学に関する研究 (越智小枝, 須江洋成)

てんかんセンター化に向けワーキングを重ねてきたが、緩徐なセンター化をめざす新病院体制の方針転換から、センター化は見送られる状況となった。センター化を再度めざすためにも、人材育成・検査法の改良を進めていく。また、現在、てんかんに関する出版の準備を進めている。当事者とその家族、施設職員などの方々を対象と考えており、てんかんのやさしい解説はもちろん、ライフイベントにまつわる問題、例えば就学、就労、出産などといった悩みごとへの対応・解説をも柱にしたいと考えている。なお、本学で開催させていただいた第 12 回てんかん学会関東甲信越地方会の際の発表を若手医師が症例報告としてまとめ、投稿予定。

Ⅴ. 臨床生理学に関する研究 (野尻明由美, 杉本健一)

昨年度に引き続き、心電図自動解析の不整脈診断精度に関する研究を行い、従来当院で使用してきたプログラムソフトと最新のプログラムソフトとの比較を開始した。不整脈領域では、心房細動のカテーテルアブレーションに関連する研究を継続し、欧米誌に報告した。また、心臓 MRI における遅延造影の新しい採点法を開発し、ファブリー病患者における遅延造影率を解析し、その有用性を証明し、欧米誌に発表した (Nojiri A, et al. J Cardiol 2020;

75(1): 27-33)。

Ⅵ. 臨床病理学・細胞生物学・がんゲノムに関する研究

1. がんゲノム検査体制の構築 (目崎喜弘)

附属病院は、がんゲノム医療中核拠点病院である国立がん研究センター中央病院の連携病院となっている。そこで、国立がん研究センターがんゲノム情報管理センター情報活用戦略室に出向し以下の研修を行った。1) 遺伝子変異情報をタンパク質の構造情報に還元するための Molecular dynamics シミュレーションの立ち上げ、2) がんゲノム変異の意義付け、およびがんゲノム情報管理センター調査結果の校閲、3) ゲノム解析の元データから、医療に役立つ情報を引き出すための Expert panel 会議への参画。以上の研修で得られた知識・経験を附属病院の臨床検査技師等に還元し、併せて医学生への教育にも活用したい。

2. 肝疾患における TGF- β LAP-D の意義について (政木隆博, 松浦知和)

肝臓の線維化は類洞壁細胞からの TGF- β 産生とその活性化が引き金となって引き起こされる。細胞から放出された TGF- β は主に細胞外マトリックスの Latency associated protein (LAP) によってアンカーされる。LAP は組織特異的プロテアーゼによって切断されて、TGF- β を活性化する。切断された遊離側の LAP を認識する抗体を用いて血中の LAP 断片を ELISA で測定すれば、肝線維化活性化を血液検査で評価できる。理化学研究所 (小嶋聡一客員教授, 古谷 裕上級研究員) との共同研究で新規 LAP-D 抗体を作製し、感度の高い ELISA 系を構築できた (特許申請)。

Ⅶ. 臨床検査業務における安全管理・データ管理

1. 検査部門における心理的安全性について (海渡 健)

臨床検査技師が感じる心理的安全性について調査した。その結果、助けを求めやすい環境はあったが、活動許容姿勢はなかった。また、検査部門間で差があり、心理的安全性の低い部門ではその必要性を強く認識していたこと、中堅技師の認識度が特に低かった等も判明した。これだけでチーム活動を比較することはできないが、部署や経験別に心理的安全性の認識に相違があるため、その特徴を理解し全員で心理的安全性を高めるためにどうすれば良いかを考えながら取り組む必要がある。

2. 臨床検査におけるデータ管理（越智小枝）

災害公衆衛生については、災害後の長期的健康影響・オリンピックにおける公衆衛生の課題、災害公衆衛生と倫理等につき5大学で8コマの講義を行った。また放射線災害時の医療施設の被害についての文献レビュー論文が受理された。災害時のPoint-of-care testing (POCT) 活用の課題についての文献レビューも投稿中である。リウマチ疫学研究については産業医科大学のレジストリデータを用いた後ろ向きコホート研究にて分子標的薬の有効性が異なる患者群が存在することを示した。更に同レジストリを用い difficult-to-treat rheumatoid arthritis の新たな定義を提言する論文を投稿中である。またDPCデータを用い、関節リウマチ患者の人工関節置換術における死亡・入院日数延長のリスク因子解析を行っている。

「点検・評価」

1. 教育

1) 1年次対象

スタートアップ研修（松浦知和、政木隆博）

2) 2年次対象

コース基礎医科学Ⅱのユニット「機能系実習（生理学系）」目崎喜弘：6回

講義（コース基礎医科学Ⅱのユニット「消化器系」）中田浩二：1コマ、目崎喜弘：1コマ）

3) 3年次対象

(1) コース外国語Ⅲのユニット「医学英語専門文献抄読Ⅰ」（前期・後期）目崎喜弘

(2) 講義（コース臨床基礎医学のユニット「栄養科学」臨床栄養学：松浦知和：1コマ、栄養学：吉田 博：1コマ、ユニット「行動科学」須江洋成：1コマ、ユニット「細菌・真菌と感染」河野 緑：1コマ）

(3) コース研究室配属（感染症検査～COVID-19検査体制の確立～：1名）

4) 4年次対象

(1) 4～5年次集合教育（臨床検査医学講義：5コマ（松浦知和：1コマ、海渡 健：1コマ、須江洋成：0.5コマ、杉本健一：0.5コマ、小笠原洋治：0.5コマ、目崎喜弘：0.5コマ、政木隆博：0.5コマ、野尻明由美：0.5コマ）

(2) その他の講義（コース臨床医学Ⅰのユニット「血液・造血器（臨Ⅰ）」海渡 健：1コマ、小笠原洋治：1コマ、ユニット「内分泌・代謝・栄養（臨Ⅰ）」吉田 博：1コマ、ユニット「精神医学」須江洋成：1コマ、ユニット「消化管（集合）」中田

浩二：1コマ）

(3) コース臨床医学Ⅰのユニット「基本的臨床技能実習」（合計40回、講座所属教員・非常勤講師が分担、中央検査部技師・講座職員が補助）

5) 4～5年次

臨床実習：1クール2日間、年間19回、Reversed CPC (RCPC) および中央検査部見学実習、RCPCは臨床系教員および非常勤講師が分担。見学実習は4病院中央検査部技師の協力のもと行われた。

6) 5年次

(1) コース臨床医学Ⅱのユニット「臨床医学演習」海渡 健：1回、小笠原洋治：1回

(2) 講義（コース臨床医学Ⅱのユニット「血液・造血器（集合）」海渡 健：1回）

7) 大学院

2年目：社会人大学院生として松田麻未、大学院講義を履修修了。ウイルス感染症検査について研究継続。

4年目：社会人大学院生として、安藤 隆、江崎裕敬が英文論文執筆・投稿。江崎の投稿論文は受領された。学位審査を経て、医学博士が学長より授与された。

8) 訪問研究員

野本秀材が学位審査を経て、医学博士が学長より授与された。

教育に関しては、例年通り2年生から5年生まで、臨床検査医学講座の教員が、臨床検査医学に留まらず、内科・精神科・微生物学など広範囲の分野の講義、実習を担当し、滞りなく終了した。

2. 研究

講座に所属する教員・医師は研究概要に示した通り、個々の専門分野を中心とした主に臨床主体の検査に関わる研究を遂行した。

3. その他

1) 越智小枝講師が、AMED 出向から臨床検査医学講座に復帰。柏病院中央検査部（2019年4～12月）、葛飾医療センター中央検査部（2020年1月～）に勤務。

2) 目崎喜弘講師が、がんゲノム医療の実地を学ぶため、がん研究センター病院内のC-CATに出向（2019年4月から2020年3月まで）。

3) 小嶋聡一客員教授（理化学研究所所属）、2019年8月19日逝去。

4) 2020年2月以降のCOVID-19拡散に対応し、附属4病院のPCR検査の検査体制の構築をサポートするとともに、院内感染発生時には政木隆博准教授の指導の下実際に検査を行った。

研究業績

I. 原著論文

- 1) [Yokoyama H](#), [Masaki T](#), [Inoue I](#), [Nakamura M](#), [Mezaki Y](#), [Saeki C](#), [Oikawa T](#), [Saruta M](#), [Takahashi H](#), [Ikegami M](#), [Hano H](#), [Ikejima K](#), [Kojima S](#), [Matsuura T](#). Histological and biochemical evaluation of transforming growth factor- β activation and its clinical significance in patients with chronic liver disease. *Heliyon* 2019; 5(2) : e01231.
- 2) [Arihiro S](#), [Nakashima A](#), [Matsuoka M](#), [Suto S](#), [Uchiyama K](#), [Kato T](#), [Mitobe J](#), [Komoike N](#), [Itagaki M](#), [Miyakawa Y](#), [Koido S](#), [Hokari A](#), [Saruta M](#), [Tajiri H](#), [Matsuura T](#), [Urashima M](#). Randomized trial of vitamin D supplementation to prevent seasonal influenza and upper respiratory infection in patients with inflammatory bowel disease. *Inflamm Bowel Dis* 2019; 25(6) : 1088-95.
- 3) [Kawamoto H](#), [Hara H](#), [Araya J](#), [Ichikawa A](#), [Fujita Y](#), [Utsumi H](#), [Hashimoto M](#), [Wakui H](#), [Minagawa S](#), [Numata T](#), [Arihiro S](#), [Matsuura T](#), [Fujiwara M](#), [Ito S](#), [Kuвано K](#). Prostaglandin E-major urinary metabolite (PGE-MUM) as a tumor marker for lung adenocarcinoma. *Cancers (Basel)* 2019; 11(6) : 768.
- 4) [Shimizu T](#), [Miyazaki O](#), [Iwamoto T](#), [Usui T](#), [Sato R](#), [Hiraishi C](#), [Yoshida H](#). A new method for measuring cholesterol efflux capacity uses stable isotope-labeled, not radioactive-labeled, cholesterol. *J Lipid Res* 2019; 60(11) : 1959-67.
- 5) 伊藤栄作, 戸谷直樹, 西江亮祐, 村上友梨, 福島宗一郎, 吉田 博, 三澤健之, 大木隆生. 下肢静脈うっ滞と血管内皮機能についての検討 前向きパイロット研究. *脈管学* 2019; 59(5) : 29-32.
- 6) 海渡 健. 人の思考特性と安全を確保するノンテクニカルスキル. *臨病理* 2019; 67(2) : 117-25.
- 7) 海渡 健. 【生理検査における医療安全】生理検査とTeamSTEPPS. *臨検* 2019; 63(6) : 686-93.
- 8) [Tokutake K](#), [Tokuda M](#), [Yamashita S](#), [Sato H](#), [Ike-waki H](#), [Okajima E](#), [Oseto H](#), [Yokoyama M](#), [Isogai R](#), [Yokoyama K](#), [Kato M](#), [Narui R](#), [Tanigawa S](#), [Matsuo S](#), [Miyanaga S](#), [Sugimoto K](#), [Yoshimura M](#), [Yamane T](#). Anatomical and procedural factors of severe pulmonary vein stenosis after cryoballoon pulmonary vein ablation. *JACC Clin Electrophysiol* 2019; 5(11) : 1303-15.
- 9) [Yamashita S](#), [Tokuda M](#), [Matsuo S](#), [Mahida S](#), [Hachisuka EO](#), [Sato H](#), [Ike-waki H](#), [Oseto H](#), [Yokoyama M](#), [Isogai R](#), [Tokutake K](#), [Yokoyama K](#), [Narui R](#), [Kato M](#), [Tanigawa S](#), [Sugimoto K](#), [Yoshimura M](#), [Yamane T](#). Comparison of atrial arrhythmia recurrence after persistent atrial fibrillation ablation between patients with or without tachycardia-induced cardiomyopathy. *J Cardiovasc Electrophysiol* 2019; 30(11) : 2310-8.
- 10) [Isshi K](#), [Matsuhashi N](#), [Joh T](#), [Higuchi K](#), [Iwakiri K](#), [Kamiya T](#), [Manabe N](#), [Ogawa M](#), [Arihiro S](#), [Haruma K](#), [Nakada K](#). Proton pump inhibitor monotherapy is effective to attenuate dyspepsia symptoms associated with gastroesophageal reflux disease: a multicenter prospective observational study. *J Gastroenterol* 2019; 54(6) : 492-500.
- 11) [Taki T](#), [Hoya Y](#), [Nakada K](#), [Kawamura M](#), [Iwasaki T](#), [Murakami K](#), [Okamoto T](#), [Mitsumori N](#), [Yanaga K](#). Gastric emptying improved significantly after PRG compared to Billroth-I reconstruction: assessment of gastric emptying with a ^{13}C -breath test. *Anticancer Res* 2019; 39(6) : 3227-30.
- 12) [Kutsuma T](#), [Katagiri S](#), [Hayashi T](#), [Yoshitake K](#), [Iejima D](#), [Gekka T](#), [Kohzaki K](#), [Mizobuchi K](#), [Baba Y](#), [Terauchi R](#), [Matsuura T](#), [Ueno S](#), [Iwata T](#), [Nakano T](#). Novel biallelic loss-of-function KCNV2 variants in cone dystrophy with supernormal rod responses. *Doc Ophthalmol* 2019; 138(3) : 229-39.
- 13) [Mezaki Y](#), [Kato S](#), [Nishikawa O](#), [Takashima I](#), [Tsubokura M](#), [Minowa H](#), [Asakura T](#), [Matsuura T](#), [Senoo H](#). Measurements of radiocesium in animals, plants and fungi in Svalbard after the Fukushima Daiichi nuclear power plant disaster. *Heliyon* 2019; 5(12) : e03051.
- 14) [Saeki C](#), [Takano K](#), [Oikawa T](#), [Aoki Y](#), [Kanai T](#), [Takakura K](#), [Nakano M](#), [Torisu Y](#), [Sasaki N](#), [Abo M](#), [Matsuura T](#), [Tsubota A](#), [Saruta M](#). Comparative assessment of sarcopenia using the JSH, AWGS, and EWGSOP2 criteria and the relationship between sarcopenia, osteoporosis, and osteosarcopenia in patients with liver cirrhosis. *BMC Musculoskelet Disord* 2019; 20(1) : 615.
- 15) [Ochi S](#), [Leppold C](#), [Kato S](#). Impacts of the 2011 Fukushima nuclear disaster on healthcare facilities: a systematic literature review. *Int J Disaster Risk Reduct* 2020; 42 : 101350.
- 16) [Ochi S](#), [Saito Y](#), [Mizoguchi F](#), [Kato S](#), [Tanaka Y](#). Insensitivity versus poor response to tumour necrosis factor inhibitors in rheumatoid arthritis: a retrospective cohort study. *Arthritis Res Ther* 2020; 22(1) : 41.
- 17) [Ezaki H](#), [Matsuura T](#), [Ayaori M](#), [Ochi S](#), [Mezaki Y](#), [Masaki T](#), [Taniwaki M](#), [Miyake T](#), [Sakurada M](#), [Ike-waki K](#). The fasting ^{13}C -glucose breath test is a more sensitive evaluation method for diagnosing hepatic insulin resistance as a cardiovascular risk factor than

HOMA-IR. *Clinica Chimica Acta* 2020; 500: 20-7.

- 18) Nojiri A, Anan I, Morimoto S, Kawai M, Sakuma T, Kobayashi M, Kobayashi H, Ida H, Ohashi T, Eto Y, Shibata T, Yoshimura M, Hongo K. Clinical findings of gadolinium-enhanced cardiac magnetic resonance in Fabry patients. *J Cardiol* 2020; 75(1): 27-33.

II. 総 説

- 1) 吉田 博, 越智小枝. 【診療に活かす臨床検査活用術！ 知っていますか こんなこと、あんなこと】 治す 高Lp(a)血症の診断の問題点と治療の展望. *Heart View* 2019; 23(8): 774-80.
- 2) Yoshida H. Clinical impact and significance of serum lipoprotein (a) levels on cardiovascular risk in patients with coronary artery disease. *Circ J* 2019; 83(5): 967-8.
- 3) Hirowatari Y, Yoshida H. Innovatively established analysis method for lipoprotein profiles based on high-performance anion-exchange liquid chromatography. *J Atheroscler Thromb* 2019; 26(12): 1027-40.
- 4) 中田浩二, 羽生信義, 松浦知和. 【消化管機能検査の現状・問題点と今後の展望】 日常診療に活かせる消化管機能検査 ¹³C呼気試験とドリンクテストを中心に. *日消誌* 2019; 116(10): 788-800.
- 5) 目崎喜弘, 政木隆博, 松浦知和. 【-脂溶性ビタミン研究70年-】 最近10年間のビタミンA研究の動向と未来への展望. *ビタミン* 2020; 94(3): 129-32.
- 6) 越智小枝. 原発事故による健康影響, その全体像. *日本リスク研究学会誌* 2019; 29(1): 27-31.
- 7) 古田 耕, 大西宏明, 東條尚子, 菱沼 昭, 吉田 博. ICD-11の和訳における日本臨床検査医学会の貢献について. *臨病理* 2020; 68(1): 31-27.
- 8) 遠藤彰一郎, 安藤 隆, 阿部正樹, 中田浩二, 河野 緑, 政木隆博, 松浦知和. 本邦ではまれなESBL産生 *Salmonella* 属菌が分離された一例. *医学検査* 2019; 68(3): 584-8.

III. 学会発表

- 1) 政木隆博, 目崎喜弘, 中村まり子, 加藤孝宣, 脇田隆字, 松浦知和. C型肝炎ウイルス感染肝細胞におけるmicroRNAの網羅的発現プロファイリングと機能解析. 第26回肝細胞研究会. 横浜, 5月.
- 2) Nakada K, Kinami S, Ikeda M, Takahashi M, Yoshida M, Uenosono Y, Terashima M, Koder Y. The usefulness of laparoscopic approach and preservation of celiac branch of vagal nerve on postoperative QOL after distal gastrectomy. IGCC 2019 (13th International Gastric Cancer Congress). Prague, May.
- 3) 遠藤彰一郎, 杉本優子, 安藤 隆, 染谷 茜, 阿部

正樹, 中田浩二. (口頭) 呼吸器系材料由来の非結核性抗酸菌の分離状況と薬剤感受性の推移. 第68回日本医学検査学会. 下関, 5月.

- 4) 目崎喜弘, 政木隆博, 中村まり子, 松浦知和. 肝臓ビタミンA貯蔵細胞(肝星細胞)におけるレチノイン酸受容体の局在と機能. 日本ビタミン学会第71回大会. 鳥取, 6月.
- 5) 吉田 博. (シンポジウム2: 積極的脂質低下療法の新たなエビデンス) LDLコレステロールの次なる治療ターゲットと残余リスクの評価. 第51回日本動脈硬化学会総会・学術集会. 京都, 7月.
- 6) 加藤庸介, 高山智美, 横山雄介, 阿部正樹, 中田浩二, 大場理恵, 塩田祐子, 土橋史明. (口頭) 当検査部で経験した脾濾胞辺縁帯リンパ腫(splenic marginal zone lymphoma: SMZL)の2症例. 第20回日本検査血液学会学術集会. 天理, 7月. [日検血会誌 2019; 20(学術集会): S149]
- 7) 渡邊二祐子, 小笠原洋治, 石見公瑠美, 齋藤 健, 比佐華菜子, 神田 俊, 倉又照美, 吉田美雪, 湯本春野, 海渡 健. (口頭) Blast phaseで発症したminor BCR-ABL1陽性慢性骨髄性白血病の一例. 第20回日本検査血液学会学術集会. 天理, 7月. [日検血会誌 2019; 20(学術集会): S139]
- 8) 千葉彩乃, 杉村亮太, 石井聡子, 比佐華菜子, 神田 俊, 吉田美雪, 湯本春野, 池田勇一, 小笠原洋治, 海渡 健. (口頭) 新規液状試薬コアグピアPT-Liquidの基礎的検討. 第20回日本検査血液学会学術集会. 天理, 7月. [日検血会誌 2019; 20(学術集会): S137]
- 9) 越智小枝, 吉田 博, 平石千佳, 古谷伸之, 三浦靖彦. 多診療科受診により診断が困難であったANCA関連血管炎の1例. 第70回日本老年医学会関東甲信越地方会. 東京, 8月.
- 10) Masaki T, Yokoyama H, Inoue I, Nakamura M, Mezaki Y, Saeki C, Oikawa T, Hano H, Kojima S, Matsuura T. (Proceedings) The histological and biochemical evaluation of transforming growth factor- β activation and its clinical significance in patients with chronic liver disease. The 30th World Congress of World Association of Societies Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM2019). Xi'an, Sept.
- 11) 阿部正樹, 中田瞳美, 俵木美幸, 八木道隆, 鈴木晴美, 中田浩二. (ポスター) 異なる2種のSCC測定試薬における測定値の比較検討. 第59回日本臨床化学会年次学術集会. 仙台, 9月.
- 12) 吉田 博. (教育講演9) 脂質異常症患者の栄養管理のポイント. 第41回日本臨床栄養学会総会・第40回日本臨床栄養協会総会第17回大連合大会. 名古屋, 10月.
- 13) Masaki T, Kato T, Matsuura T, Muramatsu M,

Wakita T. (Poster) Hepatitis C virus suppresses host cellular microRNA functions by targeting the microRNA-induced silencing complex. 26th International Symposium on Hepatitis C Virus and Related Viruses. Seoul, Oct.

- 14) 目崎喜弘, 政木隆博, 松浦知和. データベースで分析したレチノイド研究の動向. 日本レチノイド研究会第30回学術集会. 東京, 10月.
- 15) 岡安修平, 阿部正樹, 横山雄介, 俵木美幸, 中田瞳美, 中田浩二. CL-2400によるSCC測定法の検討. 日本臨床検査自動化学会第51回大会. 横浜, 10月.
- 16) 政木隆博, 目崎喜弘, 越智小枝, 野尻明由美, 松浦知和. (口頭) 急性肝不全に伴う肝性脳症発症機構の解明と新規診断・治療法の開発に向けた基礎的検討. 第66回日本臨床検査医学会学術集会. 岡山, 11月.
- 17) 越智小枝, 政木隆博, 野尻明由美, 川口憲治, 吉田博, 松浦知和. (口頭) Point of Care Testingと災害: システムレビュー. 第66回日本臨床検査医学会学術集会. 岡山, 11月.
- 18) 佐藤 亮, 山川奈菜子, 堀口久孝, 齊藤正二, 長谷川智子, 吉田 博. (口頭) アスタキサンチン処理によるマウス・マクロファージ株細胞におけるNrf2関連酸化ストレス防衛機構の影響. 第66回日本臨床検査医学会学術集会. 岡山, 11月.
- 19) 河野 緑, 佐藤貴子, 吉澤幸夫, 湯本陽子, 根本昌実, 筒井健介, 中川 良, 中川高志, 岩本武夫, 和田浩志, 佐々木敬. (ポスター) 生体ガス分析による炎症性疾患へのアプローチ. 第61回成医会柏支部例会. 柏, 12月.
- 20) Ochi S. (Session 3: Social Impact of a Radiation Disaster and Radiological Protection Studies: Effective Mass Communication on Health Risk) Science communication in Fukushima: understanding non-scientific rationality. The 4th International Symposium of the Network-type Joint Usage/Research Center for Radiation Disaster Medical Science. Hiroshima, Feb.

IV. 著 書

- 1) 松井貞子, 吉田 博. I. 脂質と脂質代謝 1. 脂肪酸とは. 伊藤 浩編. そうだったんだ! 脂質異常症. 第2版. 東京: 文光堂, 2020. p.2-12.
- 2) 吉田 博. 第6章: 代謝・栄養疾患 脂質代謝異常二次性(続発性)脂質異常症. 矢崎義雄監修. 新臨床内科学. 第10版. 東京: 医学書院, 2020. p.779-80.
- 3) 中田浩二, 一志公夫, 眞部紀明. 便秘編 Q13. 慢性便秘症患者のQOLはどのように測定するか? 中島 淳, 前田耕太郎編, かかりつけ医のための便秘・便秘失禁診療 Q&A. 東京: 日本医事新報社, 2019. p.39-43.

4) 越智小枝. 甲状腺検査における科学的エビデンスの限界-反省という戦略-. 安村誠司編著. 福島原発事故における公衆衛生課題とその対応: 甲状腺検査と保健活動. 東京: 日本公衆衛生協会, 2019. p.84-93.

5) Ochi S. Chapter 21: Health care information delivery with information and communication technology. In: Hasegawa T, Hasegawa T, Hirao T, Kondo M, Mehra S, eds. Health Care Policy in East Asia: A World Scientific Reference. Volume 2: Health Care System Reform and Policy Research in Japan. New Jersey: World Scientific, 2020. p.293-316.

V. その他

- 1) 越智小枝. コロナ, AI, 放射線: 「正解」のない臨床検査(上). アゴラ: 言論プラットフォーム 2020年2月16日. (<http://agora-web.jp/archives/2044333.html>)
- 2) 越智小枝. 検査と差別: 「検査陰性」は人々の不安を減らすのか. アゴラ: 言論プラットフォーム 2020年3月1日. (<http://agora-web.jp/archives/2044569.html>)
- 3) 越智小枝. 新型コロナウイルス「抗体検査キット」の誤解は感染爆発を起こし得る. アゴラ: 言論プラットフォーム 2020年3月29日. (<http://agora-web.jp/archives/2045105.html>)
- 4) 杉村亮太, 小笠原洋治, 齋藤 健, 石井聡子, 比佐華葉子, 神田 俊, 吉田美雪, 小林 清, 廣岡信一, 大田泰徳, 矢野真吾, 海渡 健. CD23陰性LEF1陰性慢性リンパ性白血病と診断された2症例. 日検血会誌 2020; 21(1): 40-6.